

0歳児 もみじ組 6名

【活動スケジュール】

5月マットの山・坂 6月カラーベンチ
7月巧技台 8月段ボール
9月階段 10月築山

設定理由

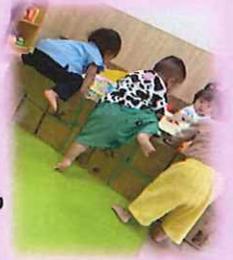
はいはいやつかまり立ちの頃から、活発に体を動かして遊ぶ姿が見られていた。その様子から、平坦な遊びから少し高さのある遊びを楽しめるようにすると、手足を使って体を動かす力だけでなく、自分でやってみようとする意欲を感じた。

そこで全身を使って動く体験を繰り返すことで足腰や体幹が育ち、体と心の両方をバランスよく育むことができるのではないかと考え設定した。



環境設定

カラーベンチ・段ボール・巧技台・築山など発達や遊びの様子に応じて、段階を追って楽しめるように環境を整えた。段ボールは、部屋に常設し、いつでも遊べるようにした。



まとめ

体を動かす心地よさを味わうことで「もっとやりたい！」という意欲も生まれ、次の挑戦に繋がっていった。

発達の段階に合わせて、挑戦できる適切な配慮をすることで、「できた」と自信に繋がっていると感じることができた。

子ども達を穏やかに見守り、挑戦を応援することが大切になると実感し、これからも遊びを通して喜びを味わっている時に、共感することを大事にしていきたい。



テーマ 自然

好奇心のままに自由にバランスよく身体を動かして遊ぶ。

振り返り

いろいろな動きを繰り返すことで、少しずつできることが増え、友だちの遊びにも関心が向くようになった。するとお互いに模倣し合い、遊びへの好奇心も高まり、友だちと一緒にダイナミックに動く楽しさで気持ちが十分に満たされているようだった。



実践

段階を追って楽しめる運動遊びを多く取り入れたことで、子ども達は大きな築山を見て、「やってみたい」というワクワクしている気持ちがあふれていた。その気持ちを大切にしながら、自由にチャレンジできるように、援助し過ぎず見守ることで、子ども達がさまざまな方法で遊び方を見つけていた。



まとめ

最初は「できないよ!」と気持ちを言葉にしなが
も、応援などを力に、諦めず挑戦する姿も見られ、
試行錯誤する力が育っていったと感じた。何度も試
し、登ることができたという経験や達成感が次の遊
びへの期待や意欲につながっていた。今後も自分で
考え試せる環境を大切にしていきたい。

振り返り

登りはじめは靴下のまま挑戦していたが、裸足にな
り足裏を使ったり、傾斜の違いやトンネルの出っ張
りなど山の形から登りやすい場所を見つけたりと、
自分なりに考え、試す姿が見られた。築山に登る
と、頂上から見える景色を友達と共有したり、体勢
やスピードを変えながら滑ったり、風や小石などの
自然物を遊びに取り入れて楽しむ姿もあった。

テーマの設定理由

築山で遊ぶ中で、子ども達が「登ること」に繰り返
し挑戦する姿があり、登れたことを喜んだり、どう
したら登れるかを考えたりする姿から、登る経験そ
のものに子どもなりの気づきや試しがあるのではな
いかと感じた。そこで、登ることをきっかけに、登
った先で何が起るか、遊びがどう広がるかを、少
人数のグループに分けてじっくりと見てみたいと考
え、テーマを設定した。

テーマ 自然

～築山に登り、広がる遊び～

もも組 2歳児

スケジュール

11月 築山に触れる
12月 どうやったら登れるか
試行錯誤する

環境設定

- ・築山の芝生、傾斜、トンネルの出っ張りなどの素材や形状。
 - ・スズランテープ
- 築山に登った先で触れたり動かしたりできるよう用意。登った後に、「やってみよう」と思えるきっかけになるよう、子ども達が自由に使える形で準備した。



実践② 築山で遊ぼう!

スズランテープを
置いたり投げたり
してみる



小石を転がしてみる

はやバージョンで
滑るよ!

ゆっくり名人!

どっちが速いかな?

やっほー!

登れた!
嬉しい!

できた~!!

靴下だと滑るな。
脱いでもいい?

実践① 登り方を試行錯誤

先生~! 頑張って
言って~!

トンネルの出っ張りに
足をかけてみる

応援してくれたら

5歳児すくわく活動の流れ

期間:10月中旬～築山で遊ぶ

11月下旬～1月中旬トンネルで遊ぶ

《まとめ》

子ども達は生活の中で様々な事を発見し、試そうとしている。その中で保育者がどのような環境を整えていくかが大切である。その発見に耳を傾ける習慣を保育者自身がつけ子ども達の声や表情、行動をよく観察しながら探求心が深まっていくように関わっていきたいと感じる。

《振り返り》

懐中電灯というアイテムがあるだけで、一気に探検家気分になりトンネル内でじっくりと遊び込む姿がみられた。光と影の面白さに気づき友達と発見したことを共有しあったり、色を組み合わせ実験する姿があった。ただ通りすぎるトンネルから、じっくりと探求活動ができる場所に变化していった。自分で試し、気づき、友だちと共有しながら遊びを広げていく姿が見られ身近な環境との関わりの中で、子ども達の探究する力が育っていると感じた。

《テーマの設定理由》

築山が完成し、体を動かして遊ぶ中で、トンネルの中では立ち止まり声を響かせたり暗さを楽しんだりする姿が見られるようになった。子ども達がこの空間の面白さに気がつき始めていると感じ、気づきや発見がさらに広がっていくことを願い、環境を工夫していきたいと考えた。

テーマ:自然

～築山のトンネルでの探究と気づき～

《子どもの声・姿》

「トンネルは声が響いて洞窟みたい」「とても暗いから灯りがあるといいね」
音の反響に気づき、空間の特性を感じとっていた。

《環境設定》

① 懐中電灯を置いておく
子ども達が暗さや光に興味を持てるよう懐中電灯を用意した。光を自分で操作できる環境をつくることで発見や試行錯誤が生まれることに期待した。



懐中電灯で照らすとふと映った自分の影を発見！
「ワンワン！犬だ！」



「ボコボコの模様やキズだ！」「月の満ち欠けができるよ！」

《環境設定》

② 懐中電灯

カラーフィルム(ピンク・青・緑・黄)
映る場所によって色や見え方が変わること
に気づき、試したり見比べたりする姿
につながり遊びが広がるようにした。

「緑と黄色を混ぜたら夕焼け空きれいだな～」

《子どもの声・姿》

「懐中電灯じゃ色が変わらないからな～」「他の惑星は違う色なんだよ」と、色に注目した声が聞こえてきた。

「カラフルトンネル！」

